

科目名	人体構造機能学Ⅱ（筋・骨関節系）	担当教員	鈴木大輔 伊藤俊輔※ ※印は実務経験のある教員を示す。			
-----	------------------	------	-----------------------------------	--	--	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法専攻 作業療法専攻	専門基礎科目	必修	1年次	後期	1単位	演習

科目概要	「人体構造機能学Ⅰ（筋・骨関節系）」で学習した骨、関節、骨格筋の一般的な形態的特徴・構造や機能に関する知識をもとに、学生同士が実際に触診や関節運動を体験することによって、骨、関節、骨格筋の構造的側面と機能的側面の関連性についての理解を深めることを目的とする。また、多くの学生同士が触れあい、演習を通して多様な骨関節、筋を触診することで、学生自身が能動的に観察力、思考力を養い、学問的な探究心の向上を目標とする。
学習目標	骨・関節・筋の知識を深めること。特に実際の関節運動や触診を行うことによって、観察力と思考力を養い、学問的な探求心を向上させること。

回	項目	主な学習内容	学習目標	実務経験 教員担当 項目
1	体表解剖	触診1（上肢・上肢帯：骨）	上肢・上肢帯の骨や靭帯などを触診を通して理解する。	伊藤
2	〃	触診2（上肢・上肢帯：筋）	上肢・上肢帯の筋を触診を通して理解する。形態計測ができるようになる。	伊藤
3	〃	触診3（下肢・下肢帯：骨）	下肢・下肢帯の骨や靭帯などを触診を通して理解する。	伊藤
4	〃	触診4（下肢・下肢帯：筋）	下肢・下肢帯の筋などを触診を通して理解する。形態計測ができるようになる。	伊藤
5	〃	触診5（体幹：骨）	体幹の骨や靭帯などを触診を通して理解する。	伊藤
6	〃	触診6（体幹：筋）	体幹の筋などを触診を通して理解する。形態計測ができるようになる。	伊藤
7	筋学	筋学各論1：頭部の筋	表情筋・咀嚼筋の名称と働きを理解する	
8	筋学	筋学各論2：頸部の筋	胸鎖乳突筋・舌骨上筋群・斜角筋の名称と働きを理解する	
9	筋学	筋学各論3：体軸筋（背筋群）	固有背筋、背筋の名称と働きを理解する	
10	筋学	筋学各論4：上肢帯・上肢の筋	上肢帯・上肢の筋の名称と働きを理解する	
11	筋学	筋学各論5：前腕の筋	前腕の筋の名称と働きを理解する	
12	筋学	筋学各論5：手の筋	手の筋の名称と働きを理解する	

13	筋学	筋学各論 6 : 体幹・下肢帯の筋	肋間筋・腹壁筋, 下肢帯の筋の名称と働きを理解する	
14	筋学	筋学各論 7 : 大腿の筋	大腿の筋の名称と働きを理解する	
15	筋学	筋学各論 8 : 下腿・足の筋	下腿・足の名称と働きを理解する	
評価方法		筆記試験(100%)		
教科図書		F.H.マティニーニ、他『カラー人体解剖学 - 構造と機能 : ミクロからマクロまで』西村書店、2003年 林典雄：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版. メジカルビュー社 林典雄：運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版. メジカルビュー社		
参考図書		伊藤俊一・他：DVD シリーズ 2 PT・OT のための測定評価 形態計測・感覚検査・反射検査 第2版. 三輪書店		
学習の準備		復習は必ず行うこと。		
オフィスアワー		在室時		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験		伊藤俊輔は、民間病院で筋・骨関節領域における理学療法の実務経験を有しており、本講義において、その経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。		